

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 19人 | 算数 | 19人 | 理科 | 19人 |
| 第5学年 | 国語 | 17人 | 算数 | 17人 | 理科 | 17人 |

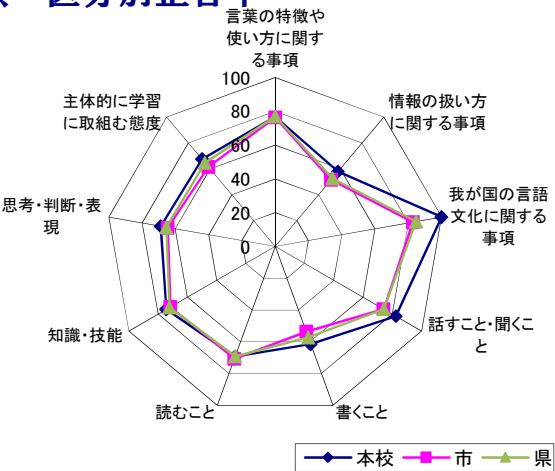
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度   |      |      |
|-----|------------------|-------|------|------|
|     |                  | 本校    | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 76.8  | 76.4 | 77.0 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 57.9  | 51.5 | 52.7 |
|     | 我が国の言語文化にに関する事項  | 100.0 | 82.8 | 84.7 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 82.5  | 74.1 | 74.2 |
|     | 書くこと             | 61.4  | 53.7 | 57.2 |
|     | 読むこと             | 69.3  | 70.7 | 69.2 |
| 観点  | 知識・技能            | 74.4  | 71.6 | 72.3 |
|     | 思考・判断・表現         | 68.8  | 64.6 | 65.4 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度    | 67.4  | 61.6 | 64.7 |



★指導の工夫と改善

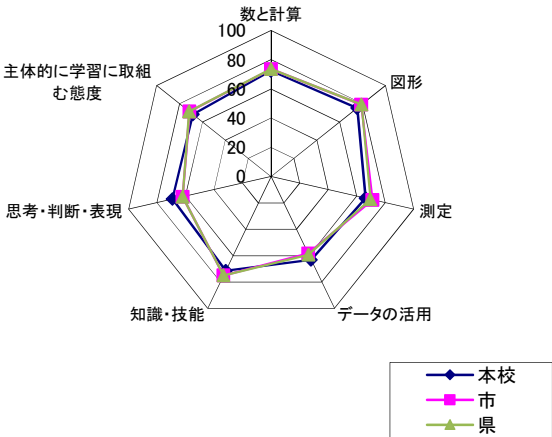
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ○平均正答率は76.8%で、市の平均と同程度だった。<br>○漢字を読む設問において、3問全てで県の平均正答率を上回った。<br>●漢字を書く設問において、「予想」の正答率が県の平均を上回ったものの、「庭」「温かい」の正答率は県の平均を大きく下回った。                                    | ・日々の宿題や自主学習などでも漢字練習の時間を確保する。<br>・プリントやノートに書く文章では、既習の漢字は必ず使用することを徹底し、忘れた漢字は調べてでも書き直すことを繰り返し指導することで、漢字を書く習慣をつける。                                               |
| 情報の扱い方にに関する事項    | ○平均正答率は57.9%で、市の平均を上回った。<br>○特に国語辞典の使い方の設問において、平均正答率が県の平均を大きく上回った。<br>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問において、県の平均をや下回った。                                       | ・大切だと思う言葉や文を探す活動と同時に、なぜその言葉や文が大切なのかという理由を一つ一つ丁寧に確認する。<br>・日々の学習活動の様子からは内容の読み取り以上に自分の考えを書くことを苦手としている様子が見られる。作文や日記などの書く活動を通して、自分の考えを文章にする活動を重点的に実施する。          |
| 我が国の言語文化にに関する事項  | 平均正答率は100%で、市の平均を大きく上回った。<br>○「休」の部首である「にんべん」を答えることができたが、設問がこの1問しかなかったため、正答率100%であっても、定着していると判断するのは難しい。                                                           | ・できるだけ多くの漢字について、国語辞典や図書資料等の利用を通して部首や成り立ちについて理解を深めていく。                                                                                                        |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は82.5%で、市の平均を上回った。<br>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問において、県の平均を大きく上回った。<br>○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す設問において、県の平均を上回った。<br>●話し手が伝えたいことの中心を捉える設問において、県の平均と同程度だった。 | ・教科に限らず、授業の中で目的に応じた質問の仕方、相手の意見に関連付けた自分の意見の述べ方などの話型を示し、繰り返し指導していく。また、関連性の高い発言をつなげていくことで、話し合い活動が充実することを実感させ、よりよい話し合い活動の仕方を身に付けられるようにする。                        |
| 書くこと             | 平均正答率は61.4%で、市の平均を上回った。<br>○目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする設問では47.4%で、県の平均35.4%を大きく上回った。<br>●「指定された長さで文章を書く。」の設問では57.9%で、県の平均62.4%をや下回った。                  | ・字数や段落数などの条件に合わせて文章を書くことについては、定着に大きな個人差が見られる。作文や日記などの指導においては、重点的な個別指導が効果的だと考える。また、授業の振り返りやまとめの際に、文字数制限や段落構成の条件、必須で書く単語や内容の設定を行い、与えられた条件に合致させながら書く経験を積み重ねていく。 |
| 読むこと             | 平均正答率は69.3%で、市の平均と同程度だった。<br>○場面の様子について、叙述を基に捉える設問において、県の平均を大きく上回った。<br>●叙述を基に段落の内容を捉える設問において、31.6%で県の平均46.7%を大きく下回った。                                            | ・司書教諭と連携しながら、学年・児童の実態に応じた文学作品をより多く紹介するとともに、じっくりと叙述を読む時間を確保していく。また、文章に書かれていることから登場人物の性格や気持ちを推測させるために、朝の読み聞かせの後には「人物の考え方や性格をみんなで考える」などの活動も取り入れていく。             |

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 72.4 | 73.5 | 73.6 |
|     | 図形            | 75.4 | 79.0 | 79.1 |
|     | 測定            | 66.3 | 71.1 | 69.8 |
|     | データの活用        | 63.2 | 58.4 | 59.2 |
| 観点  | 知識・技能         | 71.4 | 75.0 | 75.0 |
|     | 思考・判断・表現      | 69.2 | 62.1 | 62.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 68.4 | 71.4 | 71.6 |



★指導の工夫と改善

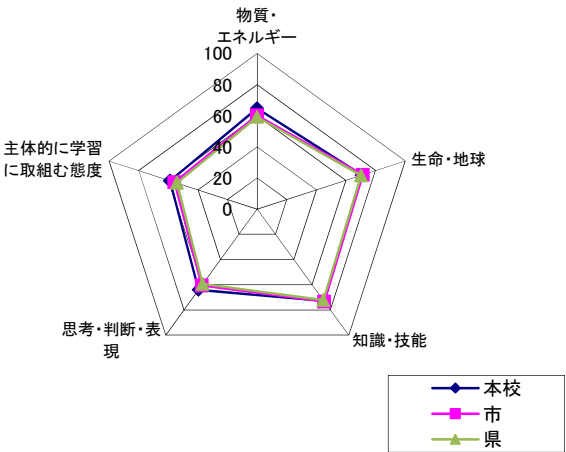
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は72.4%で、市の平均と同程度だった。<br>○口を使った式の2つの設問において、県の平均を大きく上回っており、口を使った文章問題と図(数直線)の構造を正しく捉えることができていた。<br>●分数の数直線上での表し方の設問において、正答率が県の平均を大きく下回った。また、分数の大きさの設問においても、正答率が県の平均を下回っており、分数の理解に課題があることが推測される。 | 引き続き計算についての基礎的な知識について再度確認し、確実に身に付けさせるとともに、計算プリントやドリルで定着を図っていく。また、家庭学習や朝の学習の時間、タブレットを活用し、より計算技能を高められるように、適切な課題を取り組ませていく。<br>分数の学習については、分数の意味を単なる知識としてではなく、実際に操作活動を通して実感を伴って捉えられるような工夫をすることで、数直線などと結びつけて分数の意味を理解できるように指導していく。 |
| 図形     | 平均正答率は75.4%で、市の平均をやや下回った。<br>○円の半径の設問において、正答率が県の平均を上回った。<br>●正三角形の作図の設問において、正答率が県の平均を大きく下回った。                                                                                                     | 二等辺三角形や正三角形の性質を復習するとともに、コンパスの道具としての特性を確認することで、図形の性質の理解をさらに深められるように指導する。また、作図を苦手とする児童に対しては、個別指導の機会を設け、コンパスやものさしの使い方など、基本的技能の定着を図っていく。                                                                                        |
| 測定     | 平均正答率は66.3%で、市の平均をやや下回った。<br>○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める設問において、正答率が県の平均と同程度だった。<br>●分＝60秒の関係、道のりの意味の設問において、正答率がともに県の平均を下回った。                                                                         | 学習における基礎的事項が十分定着するよう、授業において用語の提示や習得方法を工夫していく。<br>時間や距離などの量的感覚を身に付けさせるために、身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ、体験を通して実感を伴った理解を促していく。                                                                                                    |
| データの活用 | 平均正答率は63.2%で、市の平均をやや上回った。<br>○複数の棒グラフを組み合わせてグラフを読む設問において、正答率が県の平均を上回った。<br>●棒グラフの1めもりの大きさに着目して、間違いを指摘する記述式の設問において、正答率が県の平均と同程度だったものの、他の設問と比べると低かった。                                               | 棒グラフを見て、1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく、様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるためには、棒グラフを見て、気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れるとともに、自分の考えを書く機会を設けるようにする。<br>さらに、算数科だけでなく、社会科や理科の学習内容との関連付けを図り、表やグラフを読み取る力を養っていく。                                              |

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 64.7 | 60.2 | 59.2 |
|     | 生命・地球         | 70.7 | 71.3 | 70.3 |
| 観点  | 知識・技能         | 72.9 | 73.4 | 72.3 |
|     | 思考・判断・表現      | 64.1 | 60.6 | 59.6 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 58.9 | 55.9 | 54.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、64.7%で、市の平均をやや上回った。</p> <p>○光の性質の設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。</p> <p>○物の重さの設問において、正答率が県の平均を大きく上回り、実験の結果から物の形を変えても重さは変わらないことがよく理解できていた。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方」と「正午にできる影の方位」に関する設問において、正答率が県の平均を下回った。</p> <p>●「種類の異なる同体積の情報を読み取って推測する」「豆電球が付かない理由を推測する」設問において、正答率が市の平均を下回ったり、正答率が低かったりした。情報や結果から物事を推測することが苦手であると考えられる。</p> | <p>どの単元においても、生活や既習事項と結び付けた導入で、自ら問いを見い出せるよう工夫する。実験前の予想、実験後の結果からの考察の時間を十分に確保し、自分の言葉で説明したり、グループやペアで話し合ったりする学習を大切にしていく。</p> <p>「実験結果からわかること」や「情報を読み取って推測する」活動を理科の授業の展開に位置付け、「適用」「分析」「構想」「改善」などを意識した「考えること」を経験させていく。</p> <p>学習内容が未定着の児童に対しては、ICT機器などを活用して該当する内容について復習できる機会を設ける。</p>                                                     |
| 生命・地球    | <p>平均正答率は70.7%で、市の平均と同程度だった。</p> <p>○モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する設問において、正答率が県の平均を大きく上回り、定着が図られているといえる。</p> <p>○光を重ねた部分の明るさと温度のようすを指摘する設問において、正答率が県の平均を大きく上回り、ソーラークッカーで料理ができることを説明する設問において、正答率が県の平均を上回った。</p> <p>●植物の育ち方に関する設問において、正答率が県の平均をやや下回った。</p> <p>●こん虫のからだのつくりに関する設問において、正答率が県の平均を下回った。</p>                           | <p>昆虫や植物の観察の際は、実物をよく見る活動を行うだけでなく、体験的な活動を取り入れて定着を図る。また、資料等を有効活用し、調べたことを自分の言葉でまとめたり、説明したりする活動を取り入れていく。</p> <p>観察に使う器具の正しい使い方や事象の見方など、複数の単元で指導し、実際に繰り返し使わせていくことで、「使える知識」になるようにしていく。</p> <p>記述の問題が苦手な児童へは、表現の仕方の例を示し、それをもとに表現する機会を繰り返し行ない、習熟を図っていく。また、事象の理由について考えさせ、自分の言葉で表現する時間を授業の中に位置付けていく。先生や友達との話し合い活動を通して、考えを深められるようにしていきたい。</p> |

## 宇都宮市立城山西小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「テストでまちがえた問題について勉強をしている」の設問において、肯定割合が市や県の平均を大きく上回った。また、「学校の宿題は自分のためになっている」「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」「授業を集中して受けている」の設問では100%の児童が肯定的回答であった。このことから児童一人一人が意欲的に学習に取り組んでいることが、うかがえる。

○「1日当たりの読書の時間」「1か月に読む本の冊数」の設問においても、肯定割合が市や県の平均を大きく上回った。1か月に11冊以上本を読む児童が70%以上もあり、学校図書館の利用率も高い。今後も、司書教諭や図書ボランティアと連携しながら読書活動の充実に努める。

○「学校のきまりを守る」「係りの仕事をせきにんをもって取り組む」の設問において、肯定割合が市や県の平均を大きく上回った。落ち着いて学校生活を送っていることがうかがえる。

○「毎日朝食を食べている」の設問の肯定的回答が100%、「1日あたりの睡眠時間9時間以上」の肯定的回答は市や県の平均を上回り、家庭でも規則正しく生活していることがうかがえる。

○「ふだん1日あたりどのくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしているか」「ふだん1日あたりどのくらいの時間ゲームなどをしているか」の設問においては、1時間より少ない児童が一番多く、家庭でのきまりもきちんと守れていることがうかがえる。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」「人と話すことは楽しい」の設問において、肯定的回答をした児童が100%であった。今後も、道徳の時間や縦割り班活動、様々な学校行事や普段の生活を通して、思いやりの心やきまりを大切にする心などを育成していく。

○「社会・算数・理科・総合的な学習の時間」について、「将来のために大切だと思いますか」の設問において、肯定割合が100%であった。「国語」についても、100%ではないが肯定割合が高い。児童の学習に対する目的意識がしっかりとしていることがうかがえる。

●「友達の前で自分の意見を発表することは得意である」の設問においては、肯定割合が市や県の平均より低い。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加する」の設問においても、「はい」の回答は低く「どちらかといえばはい」と回答し積極的に発言することが得意でないことがうかがえる。毎時間の授業の中で、発言の機会が多くなるように指名方法等を工夫していく。

●「家で、学校の授業の予習をしている」の設問では県の平均を大きく下回った。今後は、自主学習として予習をする選択肢もあることを周知するとともに、具体的な予習のやり方についても指導していく。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる」の設問の肯定割合が県の平均を下回った。課題の出し方などを工夫して、難しい問題を解いた時の喜びを味わわせていく。

●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「毎日の生活が充実している」の設問において、肯定割合が県の平均を下回った。学校生活において、児童一人一人の自己肯定感を高め、自立の手助けができるよう配慮していく。

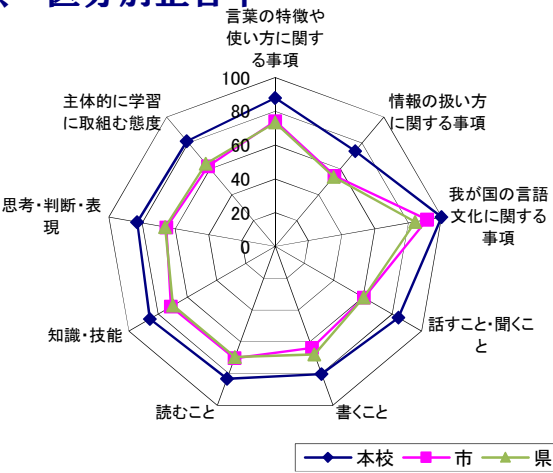
●「人と話すことは楽しい」の設問では肯定的回答をした児童が県の平均を大きく下回った。今後はグループ活動やペア学習など、日常的に対話する機会を意図的に増やすとともに、楽しい雰囲気では話が弾むよう支援していく。



宇都宮市立城山西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度   |      |      |
|-----|-----------------|-------|------|------|
|     |                 | 本校    | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 87.9  | 74.2 | 73.3 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 73.8  | 54.7 | 53.8 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 100.0 | 91.2 | 84.2 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 84.3  | 60.6 | 60.4 |
|     | 書くこと            | 80.4  | 63.8 | 68.0 |
|     | 読むこと            | 83.3  | 70.4 | 69.6 |
| 観点  | 知識・技能           | 85.7  | 71.3 | 69.9 |
|     | 思考・判断・表現        | 82.9  | 65.4 | 66.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度   | 81.4  | 61.9 | 64.0 |



★指導の工夫と改善

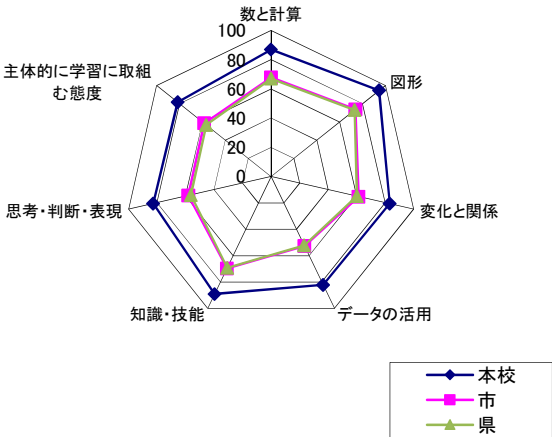
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分           | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                   |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、87.9%で、市の平均を大きく上回った。<br>○漢字の読み書きについての設問において、9問すべての正答率が県の平均を上回り、そのうち4問において正答率が100%であった。<br>○連体修飾語や連用修飾語についての設問において、すべての問題が県の平均を大きく上回った。<br>●送り仮名を含む漢字の書き取りの設問において、県の平均と同等だったが、正答率が57.1%と、他の設問に比べて低かった。 | 漢字そのものは大変よく覚えていることが分かるため、それを活用することを国語の授業をはじめ、様々な授業や活動で行っていく。それにより、覚えた漢字の使い方や、他の読み方、熟語などを習得できるよう指導していく。                                                                                     |
| 情報の扱い方に関する事項    | 平均正答率は、73.8%で、市の平均を大きく上回った。<br>○情報と情報との関係について理解し、理由や事例を挙げながら話す段落相互の関係をとらえる記述式の設問において、県の平均を大きく上回った。<br>●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係をとらえる設問において、県の平均と同程度であり、正答率が42.9%と低かった。                                       | 記述問題における正答率の高さや無答が少なかったことは、授業のまとめの後や、単元末において、振り返り活動を充実してきた成果だと考えられる。情報の扱い方については、国語の授業だけでなく他教科(算数や社会、理科、総合等)の学習でも指導する機会をもち、複数の情報をもとに調べたり考えたりさせていく。                                          |
| 我が国の言語文化に関する事項  | 平均正答率は、100%で、市の平均を上回った。<br>○ことわざについての設問において、意味を正しく知り、使うことができていた。                                                                                                                                             | 普段の自主学習でもことわざや慣用語について調べたりまとめたりする児童が多くいるため、その活動を称賛し、学級で全体で共有していく。                                                                                                                           |
| 話すこと・聞くこと       | 平均正答率は、84.3%で、市の平均を非常に大きく上回った。<br>○かるたの読み札について話合う設問において、県の平均を非常に大きく上回った。                                                                                                                                     | 普段の学習活動において、児童が学習課題に関心をもったうえで話し合い活動ができている結果であると考えられる。そのため、今後も指導を継続するとともに、学校全体で取り組んでいる「聞き方かきくけこ」についても再度確認しながらさらに児童の定着を図っていく。                                                                |
| 書くこと            | 平均正答率は、80.4%で、市の平均を大きく上回った。<br>○指定された長さで文章を書いたり2段落構成で文章を書いたりする設問において、県の平均を大きく上回った。<br>●アンケート調査結果から読み取ったことを書く設問において、県の平均と同程度であった。                                                                             | 設問からわかることを指定された条件に合わせながら文章化することは大変よくできている。今後も自分の考えを書いて表現する機会を国語科を中心に各教科・領域・諸活動において確保し、児童の書く力を高めていく。その反面、データを読み取って、そこからわかったことを書くことについては、若干苦手意識のある児童が見られたため、情報をもとに考えたり自分の考えを表現したりする機会を設けていく。 |
| 読むこと            | 平均正答率は、83.3%で、市の平均を大きく上回った。<br>○物語の内容を読み取る設問において、県の平均を大きく上回った。<br>●説明文の内容を読み取る設問において、県の平均を上回ったが、情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係をとらえる設問において、県の平均と同程度であり、正答率が42.9%と低かった。                                              | 学校全体で取り組んでいる「読書量が宇都宮一番」を生かし、児童が様々な文章や表現に触れ、言語感覚を豊かにする機会の充実を図る。                                                                                                                             |

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 86.9 | 67.8 | 67.0 |
|     | 図形            | 94.6 | 73.9 | 73.1 |
|     | 変化と関係         | 83.3 | 61.4 | 60.2 |
|     | データの活用        | 82.1 | 52.7 | 52.1 |
| 観点  | 知識・技能         | 89.1 | 69.7 | 69.2 |
|     | 思考・判断・表現      | 82.7 | 58.1 | 56.3 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 81.6 | 58.5 | 56.7 |



★指導の工夫と改善

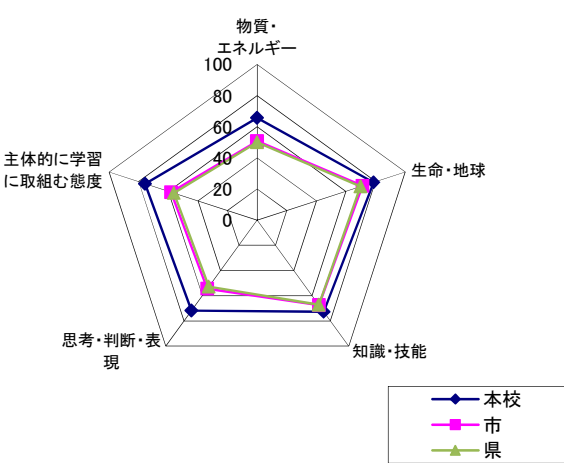
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率が86.9%で、市の平均を大きく上回った。<br>○3けた÷2けた(余りあり)の計算の設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。<br>○四則の混じった式の計算順序の設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。<br>●数直線上に示された分数の読み取り方を理解しているかの設問において、正答率が県の平均と同程度だった。    | 基礎となる計算の仕方の定着がしっかりと図られている児童が多い。引き続き、朝の学習等で練習を重ね、維持できるようにする。<br>数直線上の分数の読み取りについては、類似問題に多く取り組み、目盛りの数に着目できるようにしていく。                                                                         |
| 図形     | 平均正答率が94.6%で、市の平均を大きく上回った。<br>○1000円札のおよその面積を選ぶ設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。<br>○直方体のある辺に平行な辺の設置において、正答率が100%で、県の平均を大きく上回った。<br>●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方の設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。 | 平面図形や立体における基礎的事項は身に付いている。さらに応用問題を解くことで、多様な図形にも活用できるようにし、学びを広げていく。また、問題や解答で出た数値が実感できるように、実物を見せたり、物に例えたりするなど、教材を工夫し指導に生かす。<br>分度器の目盛りの読み方や、大きな角度を計算で求める問題など角に関する基本問題をもう一度復習させる機会を設け、定着を図る。 |
| 変化と関係  | 平均正答率が83.3%で、市の平均を大きく上回った。<br>○数量の関係を、割合を使って説明する設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。<br>●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問において、正答率が県の平均をやや上回った。                                            | 単位量あたりの大きさの基礎知識は理解している。だが、基準量と比較量から求めた割合を比較して説明する力は、まだ不十分である。説明を図式化するなど、視覚的に捉えさせ、理解につながるようにする。また、言語表現ができるように、国語などの他教科とも関連付けながら指導していく。<br>伴って変わる2つの数量では、実際にゴム紐など教具を使うなど、指導の工夫に努める。        |
| データの活用 | 平均正答率が82.1%で、市の平均を大きく上回った。<br>○2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。<br>○折れ線グラフと棒グラフを読み取る設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。                                             | 折れ線グラフや棒グラフの読み取りでは、縦軸と横軸が表しているものを理解し、目盛りを正確に読み取ることができていた。また、グラフから読み取れることを様々な観点から考え、根拠をもとに言語化することもできていた。今後も、用途に合わせたグラフが活用していけるように、社会科などの他教科とも関連付けながら指導していく。                               |

宇都宮市立城山西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 65.7 | 50.8 | 50.0 |
|     | 生命・地球         | 78.6 | 71.1 | 69.8 |
| 観点  | 知識・技能         | 72.8 | 67.6 | 67.2 |
|     | 思考・判断・表現      | 71.9 | 54.5 | 52.9 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 75.7 | 58.1 | 56.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は65.7%で、市の平均を大きく上回った。</p> <p>○「ペットボトルの容器を凍らせると容器が壊れる理由」や「電車の冷暖房の吹き出し口の位置が異なる理由」の設問における、水の性質や空気のあたまりかたをもとに説明する記述式の設問において、正答率が県の平均を非常に大きく上回った。日常の科学的事象を学習したことを結び付けて考えることができた児童が多かった。</p> <p>●乾電池の向きと電流の向きの設問において、正答率が市の平均を大きく上回ったものの50%と他の設問と比べると低かった。</p> | <p>どの単元においても、引き続き、実験や観察の技能について繰り返し指導し、定着を図っていく。基本的な観察の技能や器具の扱い方については、その都度確認し、定着を図る。</p> <p>実験の際には、調べたいことを明確にし、そのためにはどのような実験を行えばそれが明確になるのかを考えさせていく。また、記録する際には、数値だけでなくそのときの状態や気付きなども書き留めておき、考察に生かすようはたらきかけていく。実験・観察を通して、様々な視点から見つめることの重要性に気付かせ、科学的な事物現象のつながりに目が向けられるようにする。</p> <p>電気についての学習では、モーターカーやプロペラカー等の実験を十分に行い、気付いたことについて絵や図を交えながらまとめることで、視覚的にも電流の様子を的確に捉えさせる。</p> |
| 生命・地球    | <p>平均正答率は78.6%で、市の平均を上回った。</p> <p>○骨と骨のつなぎ目についての設問や、実験の結果から水たまりの水がなくなる理由を指摘する設問において、正答率が100%であった。</p> <p>○グラフからヘチマの茎の伸びと気温の変化の関係を読み取る記述式の設問や、グラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する記述式の設問において、正答率が県の平均を大きく上回った。</p> <p>●結露の現象や屋外での気温の測り方についての設問において、正答率が県の平均を下回った。</p>          | <p>引き続き、予想、実験・観察、結果、考察の過程を大切にし、それらを日常の事象と結び付けて考え、理解の定着を一層図っていく。また、実験や観察の技能について指導する機会を適宜確保し、実験や観察の技能を高めていく必要がある。予想に反する結果が出た場合には、結果を十分検討し考察することで、新たな視点を見つけ、理解を深めるきっかけにしていける。</p> <p>実験や観察における基礎的な技能の習得については、留意すべき点を随時確認したり、ポイントを分かりやすく示したりすることで、正確な技能の習得を目指していく。</p> <p>解答時間が限られた定着テストでは、問題をしっかりと読み、時間配分を考えながら解答を行うことを指導していく。</p>                                         |



宇都宮市立城山西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」など、家庭学習に関する項目において、市の平均を大きく上回った。今後も家庭と連携しながら、自分で考えて家庭学習に取り組むことができるよう指導し、学力向上を目指していく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の項目において、市の平均を大きく上回った。今後もその好奇心を大切に、児童の興味・関心を引く教材・授業づくりを行っていく。

○「1か月に、何さくらい本を読みますか」の項目において、11冊以上と回答した児童が60%と、市の平均を大きく上回った。今後も、司書教諭と連携を図り、積極的に図書室を利用する機会を設けたり、読書活動を推進したりしていく。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問では、肯定的回答が市の平均を上回った。今後も小規模校として、教師と児童のよりよい距離感を保ちながら、一人一人に合った指導の工夫をしていく。

●「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の項目において、「はい」と回答した児童は、市の平均を大きく下回った。今後は、道徳の授業を中心として、様々なことに挑戦することの大切さを伝えたり、挑戦する場を意図的に与えたりし、児童の自信につなげていく。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の項目では、市の平均をやや下回った。今後は算数の授業の中で、日常生活と関連させて考えることができるように工夫改善をしていくとともに、保護者とも連携を図り、普段の家庭生活の中で算数を用いる場面を積極的に取り入れていくよう、懇談会や学年だより等を使って促していく。

●「しょう来のゆめや目標をもっている」の項目では、肯定的回答が市の平均を下回り、「家の人としょう来のことについて話すことがある」の項目でも、肯定的回答は市の平均を大きく下回った。道徳や学活の授業を通して、将来の夢や目標に向かって努力することの大切さを指導するとともに、懇談会や学年だよりも使いながら、家庭でも将来のことについて話す時間を設けてもらうよう促していく。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の項目では、「はい」と回答した割合が、市の平均を大きく下回った。学校全体で取り組んでいる「聞き方かきくけこ」を今一度学級全体で確認し、話を最後まで聞くことができる児童を称賛しながら、少しずつ学級全体が話を最後まで聞く雰囲気づくりを行っていく。

宇都宮市立城山西小学校（第4・5学年共通）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組    | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                   | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                   |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習指導の工夫改善 | ・授業における効果的な導入や発問の工夫<br>・児童に学習課題をはっきり理解させ、見通しをもって課題にじっくり取り組ませる授業展開の工夫。<br>・授業終末または単元末の振り返り活動において、学んだことや考えたことを的確に表現する機会の充実<br>・既習事項や他教科の学習・実生活との関わりを意識した学習の実施 | ・学習や授業についての設問において、学習が楽しい・授業がよくわかると回答した児童の割合が県の平均を上回った。<br>・授業で習ったことをわかりやすくノートにまとめたり、学習内容を復習したりすることについての設問において肯定割合が県の平均を上回り、おおむね定着していると思われる。<br>・世の中のことへの興味・関心についての設問においても、肯定割合が県の平均を大きく上回った。 |
| 読書活動の充実   | ・「読書量 宇都宮一」を目指した、全校での取り組み<br>・学級図書の設定および定期的な本の入れ替え<br>・朝の読書の時間の確保<br>・読書記録の実施<br>・校内読書週間の実施                                                                 | ・読書に関する設問において、個人によりばらつきがあるものの、どちらの学年も中央値が県の平均を上回った。また、パソコンやインターネットでの調べ学習よりも図書資料を活用して調べるという傾向が見られた。                                                                                           |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                    | 重点的な取組                                                              | 取組の具体的な内容                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・国語、算数、理科のどの教科においても、基礎的な問題の定着が不十分な児童がわずかに見られた。<br>・学力の二極化が認められた。<br>・資料の読み取りや活用力の定着が全体的に不十分である。 | ・基礎的な学習内容の定着を再度徹底していく。<br>・教科間および、単元どうしのつながりを指導者も学習者も十分意識して学習に取り組む。 | ・算数の授業開始時に、短時間で取り組める計算問題を毎回行い、基礎的な計算力の徹底を図っていく。<br>・国語の授業開始時には、各学級で工夫して漢字の定着を図るための学習が進められているので、担任間で情報共有を図り実践を広げていく。 |